

た。

「本件に関する文書は「自大正三年至大正三年文部省往復書類」に綴込まれており、そのなかにラグーザの嘆願書の仏訳コピーが含まれている。往復文書の記事によれば、このコピーにはラグーザがパレルモ市の依頼により一八九三年に制作したガリヴァルディ將軍騎馬銅像の写真が添えられていた筈であるが、これは現存しない。この嘆願書の原本は外務省記録中の「伊国人ヴィンセンゾ・ラグーザ氏再採用方請願ノ件」に保存されているらしく、青木茂編『近代の美術46フォンタネージと工部美術学校』（昭和五十三年。至文堂）にその部分訳が掲載されている。

ラグーザは嘆願書のなかで凡そ次のように言っている。私は工部美術学校在職中、明治天皇に謁見し、そのとき伊藤博文を通じて天皇より新宮殿の中央に置く天皇の騎馬像の制作を命ぜられた（木村毅著『ラグーザお玉自叙伝』（昭和五十五年。恒文社）所収マリオ・オリヴェリ著「ヴィンツェンツォ・ラグーザ伝」ではこれを明治十七年とする）。

私はその準備にとりかかり、工房が建てられ、イタリアから材料が運ばれるなどしたが、新宮殿の建物に支障が生じて部分的に取壊しが行われたりしたため、仕事が延期され、また、陛下が宮城建設による国家財政の圧迫を望まなかったことなどにもより、その仕事は中止となった。しかし、陛下が崩御された今、日本国民は大帝国を完成させた偉大な陛下の大騎馬像を首都に建設すべきときを迎えている。私は日本への親愛の情、陛下への敬服献身の気持、および自分のかつての弟子たちをより高度に完成させたいという願いにより、是非とも日本政府に数年間仕え、この大騎馬像を制作したい。

私の技倆を証明するためにガリヴァルディの大騎馬像の写真を二枚添えよう。雇用条件は日本政府にお任せする。かつて弟子たちに約束したように彼らと再会し、東京（正式にはパレルモ）で結婚した妻とともに再び日本を訪れることは喜びに堪えない。妻もラファエルの芸術に関してイタリアの学問を習得し、数多くの展覧会で受賞し、高等美術学校の女子部創設以来十八年以上も指導者をつとめ、自宅のアトリエでは貴族の令嬢を教えているので、日本の公立学校教師としても適任である、と。

ラグーザ夫妻は明治天皇崩御を機として記念銅像建設計画が起ることを予期し、再来日を計画したのであるが、予期に反して大規模な建設計画は起こらず、大正三年に宮内大臣田中光顕伯爵らの発議により立像（原型渡辺長男、鑄造岡崎雪声）が作られ、常盤聖蹟記念館および宮中吹上御所に安置されたのみであった（渡辺正治氏作成「渡辺長男略歴」）。

⑬ 行樹社

大正元年十一月一日より七日まで赤坂溜池三會堂で行樹社同人第一回展覧会が開かれた。行樹社は本校日本画科の生徒や卒業生が中心となって結成した団体で、日本画と洋画の障壁撤廃による絵画の革命を旗印とし、官展反対の立場を表明した。その第一回展はフュンザン会第一回展と同時期で、日本画界の最尖鋭部分として注目を集めた。出品者は小泉勝爾、水島爾保布、小林源太郎、小林波之輔、伊藤順三、五十嵐禎夫、広川松五郎、藤井達吉、浜田葆光、川路柳虹らで、七十余点が出品された（『美術新報』第十二巻第二号。大

正元年十二月。

第二回展は翌二年十一月一日から七日まで虎の門議員俱樂部で開かれ、前回以上に注目を集めた。出品者には新たに郷倉白雅(千靱)、川崎隆一、峰島尚志、藤井正次、友田治夫といった名も見える。約八十点が出品されたが、最も意欲的に出品して注目されたのは水島爾保布であった。彼は「更紗を作る女」「蛇の腕環」「凝視」「地獄太夫」「蛇ぞめ」「夜の異性」「黙笑」「夜曲」「石人の幻」などを出品している。小泉勝爾は「山の女」「沼の花」「冬」「夜の噴火」「北の海」などを、川路柳虹は「永代橋」その他を、川崎隆一は「童謡」「呪はれたる家」「バイブル」「壺」「白き卓布と果実」などを出品した。これらの画題を見るだけでも日本画の常識を破る新奇で異端的な作品が多かったことが想像されよう。特に注目を集めた水島の作品については『都新聞』(十一月三日)で五十嵐楨夫が、

昨年その第一回發表に當つて、放膽なる個性の發現の下に濃厚な色彩と神經的な手法とを以て觀者に特殊の印象を與へ更に繊細にして而かも大膽なる黒のモノクロームの試作によつて驚異の眼を集注せしめた水島爾保布氏の作品は、愈その眞摯なる研究と充實せる努力との結果を示し、創造的使命の表白と個性的表現の深索を熱心に語り、更にその得意の白描に至つては當代唯一のものとして眞に見逃す可からざるものである。

と論じ、「赤い甕」の写真図版を掲載しているが、これを見る限り、およそ日本画の伝統とは無縁の、放恣に気分を表出する作風で

あつたらしい。

なお、行樹社第二回展と同時期に、読売新聞社三階では雑誌『仮面』主催洋画展覽会が開かれ、油絵、水彩、パステル、木炭画、エッチング、焼物などおよそ二百点が展示された。出品者は広島晃甫、川路柳虹、永瀬義郎、長谷川潔、大野隆徳、横井礼一、宮崎省吾、野口柁夫、小林徳三郎、尾島則義、尾島菊子、宇野長尚、鈴木金平、福田靖夫、鍋井克之、蓮見一枝、原韶光、河原崎国太郎らであり、東京美術学校生徒、卒業生を多く含む新進作家たちであつた。